

◆巻頭言◆

「実践ナレッジ・イノベーション研究部会」

日本ナレッジ・マネジメント学会 理事 廣瀬 文乃
(立教大学経営学部助教)



立教大学経営学部助教 廣瀬文乃です。このたび、日本ナレッジ・マネジメント学会の理事に就任致しました。人工知能やシンギュラリティなどの技術の進展により本格的な知識社会が進行する中で、野中郁次郎一橋大学名誉教授に始まる知識創造理論の可能性を信じ、研究と実践に取り組んで参る所存です。ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

さて、今回のメルマガでは、私が部会長を務めております実践ナレッジ・イノベーション研究部会について、これまでの活動の振り返りと今後の展開についてご紹介をさせていただきます。

実践ナレッジ・イノベーション研究部会は、知識創造経営理論をベースとするイノベーションの実践の方法を学ぶことを目的として、2015年12月に始まりました。位置づけとしては、2年前に始まった組織知の形成・持続研究部会(部会長:高山千弘理事)の弟分ということで、間口を広く取り、年齢も経験も知識も多様な方々にお集まり頂いています。企業や団体にお勤めのミドルマネジャー、学識経験者や研究者など、この研究部会でなければ出会わないであろう方々が互いに学び合う場となっています。

本研究部会の活動は、2015年12月22日(月)のプレセッションに始まり、2016年1月からは原則毎月第4月曜日に開催をしています。この10月で、プレセッションを含めて10回目の開催となります。月末に近い月曜日の18:30-20:30という時間帯、そして場所を移して懇親会、という流れにも関わらず、大変ありがたいことに、毎回40名近い参加者にお集まりいただいています。

本研究部会では、回ごとにSECIモデルや実践知リーダーシップの6要件の中からテーマを決め、(1)テーマについての短い解説、(2)発表者からテーマに関連する事例のご紹介、(3)発表者による参加者とのワークショップ、(4)世話人からの振り返り、という流れで行っています。この各回の流れと、部会全体を通しての流れは、両方ともSECIモデルを意識した設計となっており、参加者の皆様に、暗黙知と形式知の相互変換による新たな知識の創造を体験して頂く仕掛けとなっています。

また、21世紀の社会には、20世紀に進展した強欲な資本主義に代わる新しい資本主義をどのように考えて実践するかという課題があり、国連のSDGsを始めとして様々な検討がされていますが、当部会でもこの課題を意識して「ソーシャル・イノベーション」をサブ・テーマにしています。既存の社会課題の解決策や、新たな社会課題の発生を未然に防ぐ対策をより効果的に進めるには、企業活動が中心となると考えるからです。そのため、ソーシャル・イノベーションに関わって来られた方々に本研究部会でのご

発表をお願いして参りました。参加者の皆様のステークホルダーとの関係づくりやエコシステムの構築の一助になればと考えています。

11月には1年の活動を総括する研究部会とする予定です。12月からの2年目の活動内容についてもご案内をすることにしております。2年目の全体テーマはまだ検討中ですので、ご意見やご希望をぜひお寄せください。また、イノベーションやコラボレーションに興味のある方、実践したい方、新しいことや楽しいことが好きな方の参加をお待ちしております。引き続き、実践ナレッジ・イノベーション研究部会へのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。